

ン遺伝子の異常でも本症が発症する。

病理所見

真皮下層～皮下組織に境界鮮明な不規則形の腫瘍塊を認める。明らかな被膜をもたないが線維性結合組織で包囲される（図21.9）。腫瘍細胞は好塩基性細胞（basophilic cell：毛母細胞由来）および陰影細胞（shadow cell：核が消失し好酸性に染色され、毛皮質に相当する）から構成される。石灰化や異物肉芽腫を伴う。

治療

外科的に摘出する。小児例では自然消退することもある。

6. 外毛根鞘腫 trichilemmoma

顔面に好発する、直径3～8mmくらいの正常皮膚色から淡褐色の疣状の丘疹。多くは単発性であるが、多発する場合はCowden症候群（MEMO）の可能性を考慮する。病理組織学的には円柱状細胞が柵状に配列し、外毛根鞘細胞に類似した透明細胞が集団で存在する。本症の悪性型として外毛根鞘癌（trichilemmal carcinoma）がある。

7. 増殖性外毛根鞘性囊腫 proliferating trichilemmal cyst

被毛部位に好発する、1～10cm大の皮下結節ないしは腫瘍。臨床的に類表皮囊腫や外毛根鞘囊腫（p.418）と類似するが、表面にびらんや潰瘍を形成することがある。病理所見で外毛根鞘性角化（trichilemmal keratinization）を示すが、細胞成分の増殖もみられ、毛包陥部由来と考えられている。病理組織学的に異型性を伴う悪性増殖性外毛根鞘性囊腫（malignant proliferating trichilemmal cyst）との鑑別を要する。

C. 脂腺系腫瘍 sebaceous tumors

1. 脂腺増殖症 sebaceous hyperplasia

同義語：老人性脂腺増殖症（senile sebaceous hyperplasia）

成熟した脂腺が増殖して隆起したもので、高齢者の顔面（前額、頬、鼻）に好発する。直径3～8mmの黄白色の丘疹ない

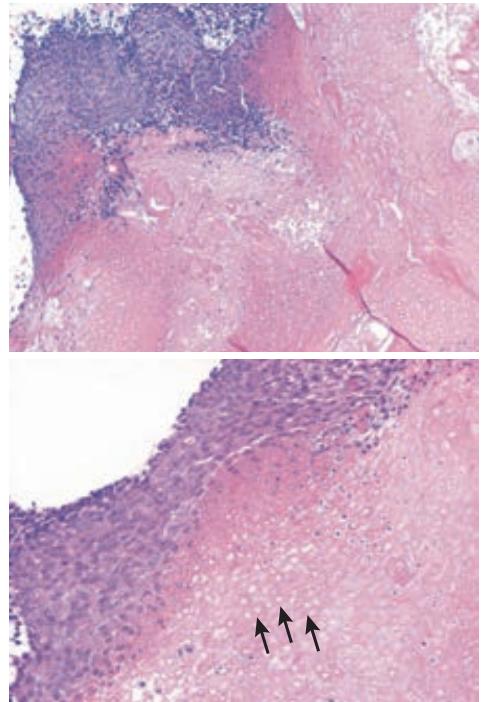


図21.9 毛母腫の病理組織像
矢印は shadow cell.

カウデン
Cowden 症候群
(Cowden syndrome, multiple hamartoma syndrome)

MEMO



図 21.10 脂腺増殖症 (sebaceous hyperplasia)

図 21.11 脂腺腫 (sebaceous adenoma)
黄色調のドーム状に隆起する小結節。

し扁平な小結節（図 21.10）。複数個生じることが多い。中心
臍窩を有し、ときに中央から皮脂を排出する。

2. 脂腺腺腫 sebaceous adenoma

中高年の顔面、頭皮に好発する黄色調の結節および腫瘍。病理組織学的に脂腺分化を示す良性腫瘍である。

3. 脂腺腫（脂腺上皮腫） sebaceoma (sebaceous epithelioma)

顔面や頭皮に生じるドーム状あるいは有茎性の結節（図 21.11）。黄色調を呈することもある。病理組織学的に、基底細胞様の腫瘍細胞の増殖を認める。未分化な細胞がみられるなか、一部で脂腺細胞や導管への分化を認める。

D. 汗腺系腫瘍 sweat gland tumors

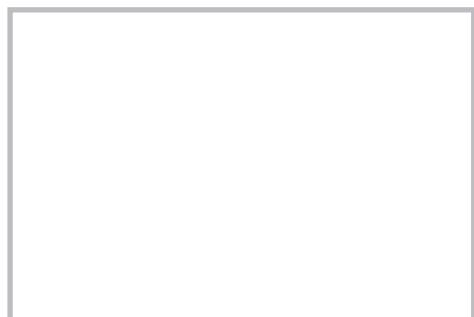


図 21.12 エクリン汗嚢腫 (eccrine hidrocystoma)



図 21.13 エクリン汗嚢腫の病理組織像

1. エクリン汗嚢腫 eccrine hidrocystoma

顔面に単発、ときに多発する、直径 2～3 mm の常色～青色調の半透明小結節（図 21.12）。多発する症例では夏季に増加、冬季に減少する傾向がある。エクリン汗腺の真皮内導管が拡張、嚢腫化したものと考えられる（図 21.13）。断頭分泌はみられない。針で穿刺すると汗の貯留が確認される。

2. 汗管腫 syringoma

症状

エクリン汗腺の真皮内導管が限局性に増殖した結果、直径 1～3 mm 大の正常皮膚色の扁平隆起性および小丘疹が多発する。眼瞼部に好発し、体幹に播種状に認められることや融合傾向を示すこともある（図 21.14）。女性に多く、汗の分泌量が増加する思春期に目立つ。自覚症状はないが、自然消退することもほとんどない。

病理所見

真皮上～中層に、大小の管腔構造と索状構造がみられる。管